



宮田中だより 2019年 11月号

横浜市立宮田中学校 電話045-331-5288

『創立70周年記念式典 ～あたたかい雰囲気の中で～』

校長 上原 浩

10月16日（水）に文化祭ステージ部門が保土ヶ谷公会堂で行われ、今年も大きな感動で包まれました。およそ1ヶ月におよぶ取組の成果です。ラグビーワールドカップで日本中が盛り上がっていた時期とも重なり、「勝利のために全力を尽くすけれども、試合が終われば勝ち負け以上のものが残る」すがすがしさを、例年以上に感じることができました。そして、翌日17日（木）の『創立70周年記念式典』。大きな行事の直後であったため、多少の心配はありましたが、宮田の子どもたちは前日と同様に頑張ってくれました。



70周年記念壁画(原画：陳 靖雅)

前半のメインは、生徒の発表による「宮田中70年のあゆみ」。古い写真をスライドにして、開校時からの校舎や学校生活の変遷を解説してくれました。また、平成8年から設置された宮中生自慢？の「自販機」の話では、分別マナーや環境に関する話で、「自分たちでよりよくしていこう」というバトンをつなぎました。また、平成22年に制定された「生徒会憲章」を定めた経緯を寸劇で演じてくれました。後半は、生徒が考えて決めた「スローガン」、「記念壁画」、「ロゴマーク」の披露に続き、インタビュー形式で「先輩からのメッセージ」をいただきました。メッセンジャーは、1期生の小川勘七さんと10期生の小柴邦幸さん。お二人とも社会で活躍され、地域でも多岐にわたって活動されています。小川さんからは、始業式を保土ヶ谷中で行い、星川小の校舎を借りて授業し、1学期の終わり頃に生徒全員で星川小から宮田中まで机と椅子を手で持って運んだ話。食べるもの、着るものが足りなかった話。小柴さんからは、夢中になる行事などなく、同じトレパンを月から土まではいて通った話。富士紡等大きな工場があって天王町商店街が大いに賑わっていた話。3年長崎修学旅行の平和宣言に触れ、平和を実現するためには、身近な人間関係を大切にしていくことの尊さについて話をいただきました。式典が進行していくにつれ、会場があたたかい雰囲気になっていきました。吹奏楽部が伴奏した全員での校歌斉唱も、ひときわ大きく響きました。参列された菅井保土ヶ谷区長、鯉淵教育長、学区4小学校の校長先生方々から、「生徒の態度が素晴らしかった」、「感動した」等多くの言葉が寄せられました。今回の式典および周年事業は、2年前から活動を始めた3代前のPTA会長倉茂さんを委員長とする「創立70周年記念事業実行委員会」の皆様、ご協力いただいた地域の皆様、昨年度から活動していた生徒実行委員会のメンバーと、全校生徒の総力で創り上げたものです。多くの方々と共に、宮田の良さを再認識できたと確信します。

紙面の都合上、今回は一部の生徒の声のみ掲載します。今後は職員玄関付近の生徒全員で作製した壁画と共に、70周年関係の記録を掲示する予定です。



「70年のあゆみ」

「ロゴマーク」披露

「先輩からのメッセ-ジ」

記念品贈呈

校歌斉唱

70周年実行委員長 3年 清水 蓮

私たちは、昨年11月から活動してきました。委員会ではファイルや壁画などを製作する事を決め、70周年のことが形に残るように考えました。また、式典で、70年間の歩みでこの学校の歴史をみんなで振り返り、この学校に親しむために、ストーリーを考え工夫してきました。 ロゴ(遠藤智礼・濱田美羽)

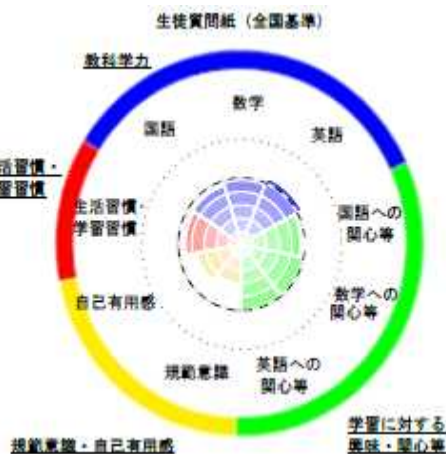


70周年記念事業実行委員（PTA、PTAのOB）の皆様には、ずっと前から私たちの活動に協力していただきました。また、生徒の皆さんにもアンケートや投票、壁画製作などで、この式典のために何度も協力していただきました。式典のために、この委員会のサポートを本当にありがとうございました。

令和元年度全国学力・学習状況調査

4月18日に実施しました3年「全国学状」の結果をお知らせします。あくまで「平均の値」ですので、個々の生徒の実態にはあてはまらない場合もあります。しかし、今年度は少々厳しい数値になっています。この状況を真摯に捉え、日々の教育活動の改善に努めて参ります。

【生活意識調査】学級全体的な生活意識や学習習慣についての課題はあるが、計画を立てて学習に臨んでいる生徒の割合は県や全国よりも高かった。読書が好きな生徒が多く、一日あたりの読書量は県や全国より高かった。また、学校図書館などに行く生徒も多い。毎日、新聞を読む生徒も県や全国より高かった。一方で、学校に行くのは楽しいかという質問に対して、「楽しいと思わない」生徒や地域行事への参加が少ないと回答をした生徒が多かった。他にも家庭でのコミュニケーションの時間がとれていないと感じる生徒の割合がやや高かった。難しいことに挑戦する意識も県や全国に比べて低かった。



《課題に対する改善の手だて》

- より多くの生徒の充実感を高めるため、すべての教育活動で「励ます・認める」ことを重点的に取り組む。特に、進路学習や学級指導などの場面で自分自身を振り返らせ、自分の良さに気づかせる。
- 安定した学校生活を送れるように、引き続き生徒指導体制を点検・改善する。また、防災訓練や地域行事ボランティアなどの取組について啓発する。
- 教育相談やYPアセスメントなどを引き続き行い、実態把握に努める。

【国語】すべての観点で全国・神奈川県を平均を下回っている。「話す能力」は、ほぼ全国・県平均と同等だが、「書く能力」と「言語に関する知識・理解・技能」が全国平均より約5パーセント正答率が低い。問題形式に関しても、特に記述式の問いにおいて大きく全国・県平均を下回っている。

《課題に対する改善の手だて》さまざまな条件で文章を書く機会を増やしていく必要がある。グラフ読み取りからの作文や、他者の意見を踏まえての作文等を積極的に取り入れていき、回数を重ねることで、苦手意識を減らすことに注力したい。記述式の問いに関しては、問題文との対話ができることが普段から確認できるので、指示をしっかりと読み取るということを意識させる。基礎的な力を養うために、問題集等を活用して漢字や文法の学習機会を増やす。

【数学】平均正答率は全国・神奈川県を平均を1～2%程度下回っている。数と式の領域や関数・資料の活用の領域では全国・神奈川県を平均とほぼ同じだが、図形分野では5%程度下回っていた。

《課題に対する改善の手だて》記述式の問題形式では平均正答率が全国・神奈川県を平均とほぼ同じである。選択式や短答式だと平均が低いのは計算の正確性が低いから、と思われる。日々の学習において、プリントや小テストなどを活用して基本的事項の理解を深め、計算の正確性を高めていきたい。また、図形分野に課題があるので、読解力を高め、論理的に説明する機会を多くとれるような授業展開を工夫していきたい。

【英語】本年度より「英語で話すこと」の調査が加わり、自身の身の回りのことについて相手に伝えることの必要性が感じられる学力状況調査であった。「話すこと調査」では全国・神奈川の平均に比べ、正答率は高く、特に自分の将来について話す調査では大幅に平均を上回った。筆記調査では書くこと、聞くことに課題が見られた。

《課題に対する改善の手だて》全国・神奈川の平均に比べ、知識に課題が見られ、それに伴い記述式の問題では三人称単数、be動詞と一般動詞の混合のような誤りが目立った。日頃より身の回りのことについて英語でまとめる練習が必要である。学んだことを実際に話してみたり、書いてみたりする活動を増やしていくことも必要であろう。

